

令和5年度 第2回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和5年11月22日(水) 10時～11時30分

■ 開催場所 平塚市博物館 特別研究室

■ 会議出席者(敬称略)

会長 植田 育男

副会長 藤吉 敬子

委員 小倉 俊宏、今野 博(欠席委員:昆 政明、新井志生実)

事務局 浜野館長、坂田館長代理(管理担当長)、川端館長代理(学芸担当長)

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 浜野館長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・ 令和5年度夏期特別展について
- ・ 情報発信(ホームページとYouTube・SNS)について

(2) 今後の事業計画等について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

■ 議事および質疑

議題(1) 報告事項等について

◆令和5年度夏期特別展の開催報告について事務局川端学芸担当長が説明資料により説明。

委員 夏休みに拝見させていただいた。これまでの博物館の展示と比べて「モノ」が少ないというのが第一印象でびっくりしたが、一つ一つのもの向き合ってみると展示思想が分かって斬新だなと感じた。残された「色」がかすかなもので「カラフル」というタイトルから想像していると「？」と思うところもあったが、想像力を働かせて考えながら自分で感じ取るところは面白いと思った。やはり低年齢の子供たちにはそこまでの意図は伝わりづらいなと思った。会場に解説してくれる人がいたり、触れるものがあったり、色のもとになる原料に触れたり、展示した資料に近づく手法も用意されていたらさらに良かったのでは。展示手法にはそれぞれの色のライトを当てたり、最後のコーナーで自分の持ち物もいつか考古資料になるのでは、と自分事として考えるという締め方も新しいと感じたしいいなと思うところはたくさんあった。ターゲットとした小学生など低年齢の子供たちとの接触する機会があまりないと思うが、そのあたりの経験をフォローするような準備もあればよかったと感じた。

委員長 アンケート集計について、今回ターゲットとした若い世代の回答にフォーカスしている「19歳以下のみ結果」で、「おもしろさ興味深さ」の項目で、全年齢の「19歳以下」の数字と「19歳以下のみ結果」の数字にずれがあるが。

事務局 数字のバックデータが手元にないので、確認後お知らせします。(確認したところ重複して回答している方がいた)

委員長 中学生をターゲットとしたということだから、小学生にはなかなかむずかしかつたろうとは想像できる。子どもたちには、昔の人のくらしとモノがつながってこないのではないか。教育委員会での反応はどうだったか。

事務局 定例教育委員会で報告した。2名の委員さんが実際に展示をご覧いただいております、展示の方法などには良い評価をいただいた。また特別展の展示の意図などを説明した動画を(タイトルは「THE 反省会」) ご覧いただいております、「動画を見たことで展示の意味がさらに良く分かった」とお言葉をいただいた。

◆ホームページ・YouTube・SNS について事務局川端学芸担当長が説明資料により説明。

委員長 ホームページアクセス数で、4・8・9月に「データ消失」とあるが、これは。

事務局 ホームページサーバーのトラブルでデータが欠測となってしまったため、過去の同月平均値で数値を補った。

委員長 先の「反省会」動画をもう少し早く公開していれば、観覧者数や評価も大きく違っていたのでは。

事務局 動画視聴数が一気に伸びたきっかけは、主要紙の神奈川地方版に担当学芸員のインタビューが取り上げられたことで、多くの市民に触れることとなった。

委員 「反省会」動画はこれからの展示でも実施するのか。

事務局 一応今回のみの特別企画のつもりでいる。

委員 「ウラ側」を見せる企画というのは、視聴者や展示の観覧者の「知りたいところ」で、興味を引く企画かと思う。特別展のたびにこういった制作の内側を見られたら楽しいと思う。

委員長 会期の中間くらいに図録を基にした解説動画をあげたら、興味を持つ人がいるのでは。

事務局 特別展関連行事で、会期の終盤だが「特別展示ウラ話」というタイトルの展示解説会を行っていて、展示物の解説だけでなく展示の意図や見方、苦労した点などの制作の過程をお話しした。参加者の反応も良く担当学芸員も手ごたえがあったようだ。ただこういった企画は展示内容によって不向きなものもあるので、機会を見て検討したい。

館長 今回の「反省会」動画は、担当学芸員のキャラクターによるところも大きい。悪びれずに素直に反省する姿勢などは、これまでの学芸員にはあまり見られないタイプでもあり好意的に受けとめられたのではと思う。また、全国の博物館関係者の団体で話題になったこともあり、視聴数も伸びたのではと思う。

委員長 すべての学芸員に同じように求めるのは酷だと思うが、ウラ側を見せるという考えは興味を引

くよいきっかけにもなると思う。

議題（２）今後の事業計画等について

◆今後の事業計画等について事務局川端学芸担当長が説明資料により説明。

（意見なし）

議題（３）その他

◆平塚市博物館の現状と課題等について博物館長が説明。

委員 第１に、最近の公共施設は民間企業のプロデュースが入ることが多い。改修時に民間企業の新しいアイデアやノウハウを取り入れられると、より魅力的になるのでは。第２に、資料のデジタル化に伴い、学校・公民館・高齢者施設など日常的に足を運ぶことのできない施設の利用者が様々な場所で資料を見ることが可能になる。とくに学校にとって有効である。第３に、博物館は好きな人にとっては魅力的だが、子供たちや知らない人たちにも、間口を広く、敷居を低くしてほしい。専門性を求める方には特別展を充実させ、全体としては市民が集い賑わう憩いの場所になってほしい。

館長 施設改修の事業手法などはこれからの検討になるが、民間企業のノウハウは十分に考慮していかないといけないと思う。また、「間口を広く、敷居を低く」という点もこれまでもいわれていることであり、運営を含めて考えていく。

委員 開館当時、とても楽しみにしていて以来何度も足を運んできたが、だんだん来る機会が少なくなっていた。というのは展示に代わり映えがなくなっていた。常設展示の展示替えが長く行われていないのは残念。また来なくなる博物館とはどういうものなのかと考えたとき、最近博物館が盛んに行っている YouTube や SNS での情報発信はとてもよい。さらに子どもに届くような情報発信にも配慮していただくことで、子供たちの博物館に対する意識も良くなるのではと思う。どんなことができるようになるのかはわからないがデジタル化には期待する。

委員 学校で使っているタブレットに博物館の情報を配信してもらえると、子供たちの興味関心に大いに役に立つと思う。

事務局 数年前 GIGA スクールが始まる際に、博物館の情報を児童生徒たちのタブレットに配信できないかと相談したが、セキュリティ対策で難しいということだった。

委員 今はあまり規制をしていない。可能ではないかと思う。

委員長 先の博物館法の改正では、デジタル化とその活用を大きく取り上げている。デジタルアーカイブはこれからの博物館にとって必須の取り組みになる。学校との連携でいえば、そういった取り組みを専門とするエドゥケーターの存在は気に留めておく必要がある。

館長 エドゥケーターの役割を今は個々の学芸員が担っているため分野で分断されているきらいはあるかもしれない。そういった役割の人材を採用できるかはわからないが、学校との連携や館

としての方向性を考えた場合は考慮する必要がある。

委員 学校行事に学芸員に来てもらうと子供たちは本当に喜んで授業を受ける。そういった体験はとても貴重で、毎年続けてほしいと思うが、市内のすべての小学校が要望したら、博物館の仕事ができなくなってしまう。悩ましく感じている。

事務局 難しいところではあるが、ワーキンググループの会員が講師役を担うこともできるので、まずはご相談を。可能な限り対応する。

◆事務連絡等

次回の協議会は令和6年3月22日（金）に開催することとした。

閉会后、秋期特別展「天象儀100年の軌跡」を澤村学芸員の案内で見学した。

配 布 資 料

令和5年度 第2回平塚市博物館協議会 次第

令和5年11月22日（水）午前10時
平塚市博物館特別研究室

1 開会

2 議事

（1） 報告事項等について

- ・ 令和5年度夏期特別展について
- ・ 情報発信（ホームページとYouTube・SNS）について

（2） 今後の事業計画等について

（3） その他

- ・ 事務連絡等

3 閉会

※会議終了後秋期特別展展示解説を予定

以 上

令和5（2023）年度夏期特別展「茶色ばかりじゃないんだぞ！～カラフルな考古資料たち～」開催報告

会 期 2023(令和5)年7月21日(金)～9月3日(日) (開催期間:39日)
休館日:月曜日

主 旨 考古資料は土器をはじめとした素焼きの焼き物が多く、そのほとんどが茶色(褐色)系のものです。展示室に並んでいる資料も茶色の土器ばかりで、当時の生活は色味の少ないものとも感じられます。しかし発掘調査から発見されたモノからは、人類がはるか昔から多彩な色に囲まれて暮らしてきていたことを示す資料があります。
今回の展示は、平塚市内で発見された彩色のある遺物や色に関連する資料などを紹介し、当時の風景がどれほど鮮やかであったのかを感じてもらい、まずはたのしんで考古資料を見てもらうことを主眼としました。

展 示 構 成 序章:周りを見れば“色”ばかり / 1章 あか / 2章 きいろ / 3章 あお / 4章 みどり / 5章 くろとしろ

入 館 者

	入館者数			開館 日数	子どもの 割合	平均入 館 者数/1 日
	大人	子ども	合計			
7月	1,539	920	2,459	9	37.4%	273
8月	4,389	2,625	7,014	27	37.4%	260
9月	501	164	665	3	24.7%	222
期間計	6,429	3,709	10,138	39	36.6%	260

(参 考)

R4 春	5,913	2,552	8,465	50	30.1%	169
R4 秋	5,846	2,208	8,054	55	27.4%	146
R4 夏	7,417	3,282	10,699	40	30.7%	267
R3 春	5,346	1,775	7,121	44	24.9%	162
R3 秋	6,906	2,877	9,783	64	29.4%	153

関 連 行 事 特別展示解説会:8月5日(土) 参加:大人9名、子ども0名 (当日整理券制)
特別展示ウラ話:8月27日(日) 参加:大人9名、子ども0名 (当日整理券制)
体験学習「昔の方法で火を起こそう」
7月30日(日)午前午後各2回 参加:大人36名、子ども58名(応募件数41件)
「カラフルな勾玉をつくろう」
8月13日(日)午前午後各1回 参加:大人31名、子ども56名(応募件数70件)

印 刷 物 図録「茶色ばかりじゃないんだぞ！～カラフルな考古資料たち～」

A5判 112頁 カラー 1,000部 頒布価格 ¥700
 開催期間内頒布部数:48部
 (参考)R3春202部、R4夏:292部、R4秋:190部、R4春:308部
 ポスター B3判 カラー 300部
 リーフレット A4判 カラー 10,000部

アンケートの結果

回収枚数 74枚

回答者の住所 平塚市内41名、平塚市外神奈川県内21名、神奈川県外5名、関東以外0名、
 (n=67) 海外0名

回答者性別 男31名、女35名
 (n=66)

回答者年齢	~19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
(n=67)	25名	4名	5名	5名	11名	5名	12名

情報の入手先 広報ひらつか 16名、博物館のホームページ 8名、あなたと博物館 8名、
 (複数回答可) SNS 6名、新聞等 6名、ポスター 6名、学校配布チラシ 2名、その他 25名
 (n=119)

おもしろさ 興味ぶかさ	とても おもしろい	やや おもしろい	ふつう	やや つまらない	つまらない
(n=74)	39名	18名	12名	4名	1名
	52.7%	24.3%	16.2%	5.4%	1.4%

難しさ	とても よくわかる	まあ わかる	ふつう	やや むずかしい	とても むずかしい
(n=72)	25名	24名	11名	9名	3名
	34.7%	33.3%	15.3%	12.5%	4.2%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
(n=73)	34名	20名	14名	4名	1名
	46.6%	27.4%	19.2%	5.5%	1.4%

19歳以下のみの結果

おもしろさ 興味ぶかさ	とても おもしろい	やや おもしろい	ふつう	やや つまらない	つまらない
(n=26) 複数回答あり	10名	6名	5名	4名	1名
	38%	23%	19%	15%	4%

難しさ	とても よくわかる	まあ わかる	ふつう	やや むずかしい	とても むずかしい
(n=23)	7名	5名	3名	7名	1名
	30%	22%	13%	30%	4%

総合評価
(n=26)

とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
11名	3名	7名	4名	1名
42%	12%	27%	15%	4%

ご意見・ご感想

- ・ふつうだった。考古資料の下に白い紙をひいただけじゃないですか（笑）
- ・「言われてみればカラフルかもしれないけどそこまででもない…」というかんじでした。昨年のトリの展示の方がおもしろかったかなあ… エポシ帽がおもしろかったです。
- ・いつもながら展示方法や解説が工夫されていてすばらしいです。もう少し専門的な用語の解説があってもよいかと思いました。（“銚”は何に使うものなのか知りたかったです。）
- ・100円ショップにあるようなもので展示していて、斬新でかつわかりやすかったです。ベルトの先にあるあれ、押しなのですね。
- ・新しい視点のテーマでおもしろく見ました。
- ・説明の語り口が、親しみやすく読んでいて楽しかったです。かっこつけず、四角四面でないところがとても良い。最初の現代の色別の雑貨はもーっとたくさんあったらさらによかったと思います。「私もコレ持ってるうー」なんて。最後の自分の持ち物が展示品になるところは、シャレが効いていてよかったです。
- ・岩絵具や草木染めなど自然から取られた色はいろいろありますが、土器などで各種の色があることははじめて知りました。着眼点がいいと思います。ただ、それぞれの色がはっきりせず、見きわめるのはかなりむずかしいですね。
- ・平塚、小田原、逆断たくさんあるが、おかまいなく建物があり、何かあったら大変だか、幸い何も起らないので平然としている。何も起らないでほしい、自分が生きている間。
- ・たのしかったです。ありがとうございました。
- ・とても興味深く、おもしろいテーマだと思いました。
- ・タイトルに魅力を感じて、見に来ました。今のように原色の色にまみれていない時代、美しい色は人々のあこがれであったのだろうと改めて感じました。ささやかな色を工夫して出し、様々な思いを込めて、いろんな物を作りたいにしえの人々の生活が、少しですが（自分が不勉強のため）見えた気がしました。
- ・説明にふりがなをつけてあって読みやすかった。古代人の生活や文化を知ることができて有意義な時間を過ごせた。
- ・子供と参加しました。分かり易く楽しめました。“色んな化石があって楽しかったです。（子供感想）”
- ・テーマの着眼点が面白いと思いました。今後展示物を見るときに味方がまた1つ増えました。
- ・いろんなカラーの考古資料があり、とっても勉強になりました。色を「あお」とひらがなで書いてあったので小さい子供でも理解しやすいなって感じました。スタンプラリーがあるととってもおもしろいと思います。
- ・きれいでほんとうにちゃいろだけじゃなかった
- ・もうちょっと色とかが分かりやすくしてほしい。
- ・テーマの着眼点が素晴らしい。展示のコメントもおもしろくてわかりやすい。
- ・あつい（とにかくあつい）
- ・やっぱり茶色っぽかった。

- ・着眼点におどろき、話をきいてなっとくしました。ありがとうございます。
- ・出土物を色分けして解説する面白い企画でした。
- ・てんじのしかたからなにまでおもしろかったです。
- ・とり展を見に来ました。去年のとり愛のような特別展示をまたやってほしいです。
- ・最後の自分の持物がいつかすごい考古資料になるかもしれないのはたいへんおもしろい発想だと思う。まずありえないだろうが（w）
- ・身近な対象である色の素についての展示を見せていただきました。「へえー」といった気持ちで一周見させていただきました。
- ・見易さからは、色別ではなく、時代順にその時代の色の使われ方を示して頂いた方が分かり易いと思った。
- ・もっとさわれるものをふやしてほしい
- ・とてもわかりやすく解説文も読みやすく良かった
- ・名札がついていましたが左側に色がついていて右に名前が書いてありましたが、名札の見方について解説とかありましたか？名称・時代・でてきたところ・地名、こんなぐあいだったでしょうか。ながめているうちに理解できてきました。視点を変えてものを見るのもたまにはいいとおもいます。
- ・様々なカラフルなものが並んでおり、普段とは異なる「色」という視点で資料を見ることができた。
- ・日頃あまりみることのできない、いろいろな資料を見せて頂きありがとうございました。昔の人の知恵もすばらしいと感激しました。
- ・難しさのことについては、小学生の1~3年は難しいと思うかもしれない。でも1階の鳥のコーナーや模型がとてもリアルで楽しいと感じられました。また来ます。
- ・説明文が良いですね。
- ・考古学を色で学ぶ企画はおもしろいです。漆が石器時代にも使われていたことや使い方に感心しました。
- ・「えぼし」をほりだしたのがすごくて、そうぞうするのがおもしろかった。（どうして埋められていたのかを考えた。）
- ・説明の文章も親しみやすく、読み易かったです。
- ・順路は free なのかと思いますが、黄色～青～みどり辺りでウロウロしてしました。
- ・展示とキャプションを分けたことが、「展示を見て→キャプションを見て→展示を再確認」という目的であるなら大成功!!だと思います。ただ、「火にまつわるもの」火きり板・火打金・火打石の使い方は、図録のような絵があるとお子さんもわかり易いかもかもしれません（夏休みですし）
- ・考古学にはあまり親しみがなかったのですが、今のモノとあまり変わらない使い方をされていたものも多くあったのだなというイメージが湧きました。説明文も親しみを持てるような文になっていて、面白かったです。
- ・きやあかがおもしろい
- ・ぼく書どきにかかれた文字をおしえてください。ガラス玉・黒曜石・まがたまがほしいです。もしくは作りたいです。
- ・土器とカラー、面白いテーマでした
- ・展示解説が面白くて、考古学に今まで親しんだことがない人でも楽しめるのではないかと思います。個人的に遺跡から出てきた烏帽子が衝撃的だったので、もっと詳しく紹介してほしいかったです。
- ・とても楽しかったです。
- ・ハレパネはつかってはいけなかったのでしょうか…？紙の角が丸く切られているだけでも、印象が変わりそうです。モノとせつめいが同じところにおいてあったらもっと見やすいと思

いました。また、「なぜそれがその色なのか」という点があまりわからなかった（ギモンに思った）ので、その説明があったらウレシイです。「わたしのもちもの」、ワクワクしました。あれ好きです。素敵な展示をありがとうございました！

- ・生まれが平塚で実家に戻るついでに来ました。自分が暮らしているエリアにこんな歴史があったなんて…。過去におもいふける時間を過ごせました。
- ・手づくり感がたまらなく良かったです。なのでわかりやすかったです。文章もやわらかく親しみやすかった。魚の骨を「青」とする感覚がおもしろい！最後の持物～のコーナーもいつも思ってることだったので「そーだよ！」と思えました。
- ・色々なお皿があっという間と思った。
- ・実際の発掘写真や地域の歴史が書かれていればもっと良かった。行ってみたいと思った。
- ・小さい子には難しかった。カラフルな色がもう少しほしい。
- ・やっぱり茶色ばかりだなておもったです
- ・「色」に着目する視点はとても新鮮でした。（ただ「色」onlyに絞り込むと、「モノ」に語らせるのは少しむずかしいのかな？とも）「色」のほかに「形」、「素材」、「用途」、重さ…etc、それぞれの着眼点を明らかにしたうえで多様な考古資料を楽しんでもらうのもありかな、と僭越ながら感じました。展示は美しく、見やすく、分かりやすかったです。（グラスを使った「見せ方」など、照明と相まって素晴らしいと思いました。）
- ・図録の裏表紙、良かったです。”
- ・たのしかったです。
- ・まだすべてそろっていない物があるので、そろうといいですね。

●情報発信（ホームページと YouTube・SNS）

表 1 平塚市博物館ホームページ訪問数

年度	訪問数												総訪問数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2019	25,341	28,945	20,781	25,587	30,663	21,877	22,078	27,657	22,303	23,149	20,375	22,326	291,082
2020	20,780	24,312	21,356	26,149	30,037	28,219	23,885	20,902	22,593	23,041	25,531	24,918	291,723
2021	25,188	32,612	30,572	32,833	28,436	27,063	27,293	27,166	25,422	13,412	20,205	22,316	323,563
2022	23,427	28,031	27,578	29,295	35,968	31,919	31,217	33,307	26,848	28,430	25,681	30,783	352,484
2023	26,548	36,108	27,282	31,296	36,062	30,517	37,744						225,557

※（斜体はデータ消失のため、該当データを除く 2015～22 の平均値で補完） 10月末現在

表 2 平塚市博物館（HIRAHAKU）Youtube 視聴回数

年度	視聴数（2018年3月まで66,450）												総視聴数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2019	669	1,584	442	4,008	1,258	457	525	2,819	1,594	1,077	695	1,533	16,661
2020	3,039	6,693	13,272	5,959	3,710	2,110	1,656	1,608	1,549	1,029	1,071	2,756	44,452
2021	3,338	3,637	3,309	5,151	4,105	3,914	3,026	2,622	2,583	7,783	8,596	12,156	60,220
2022	9,288	9,957	9,449	7,976	9,550	7,259	6,133	5,372	4,973	6,111	6,805	6,710	89,583
2023	9,125	13,648	8,915	7,772	7,719	6,317	6,702						60,198

開始（2011/1/9）から 2023 年 10 月末までの累計 370,117

表 3 平塚市博物館（HIRAHAKU）Youtube チャンネル登録者数

年度	チャンネル登録者数（2018年3月まで49）												総数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2019	2	2	1	-1	0	2	-1	3	1	1	2	3	15
2020	54	102	76	21	17	5	6	9	3	3	8	38	342
2021	53	39	40	78	68	34	22	16	15	106	112	248	831
2022	105	97	79	60	75	38	45	32	17	51	40	56	695
2023	75	120	61	26	24	35	44						385

開始（2011/1/9）から 2023 年 10 月末までの累計 2,353 人

表 4 平塚市博物館（HIRAHAKU）Youtube の毎月の視聴回数と累計チャンネル登録者数

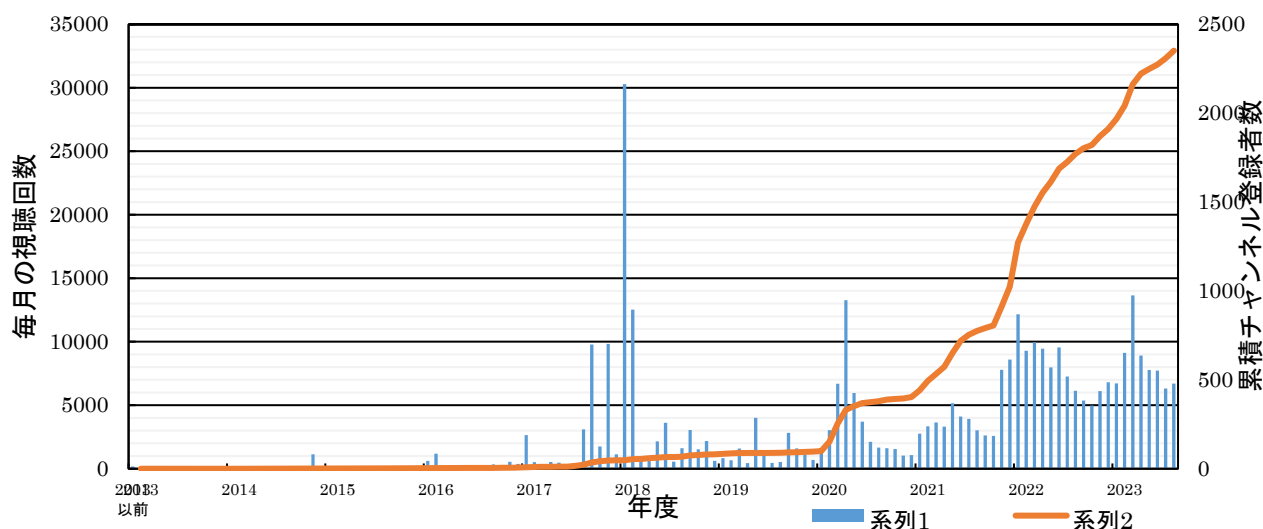
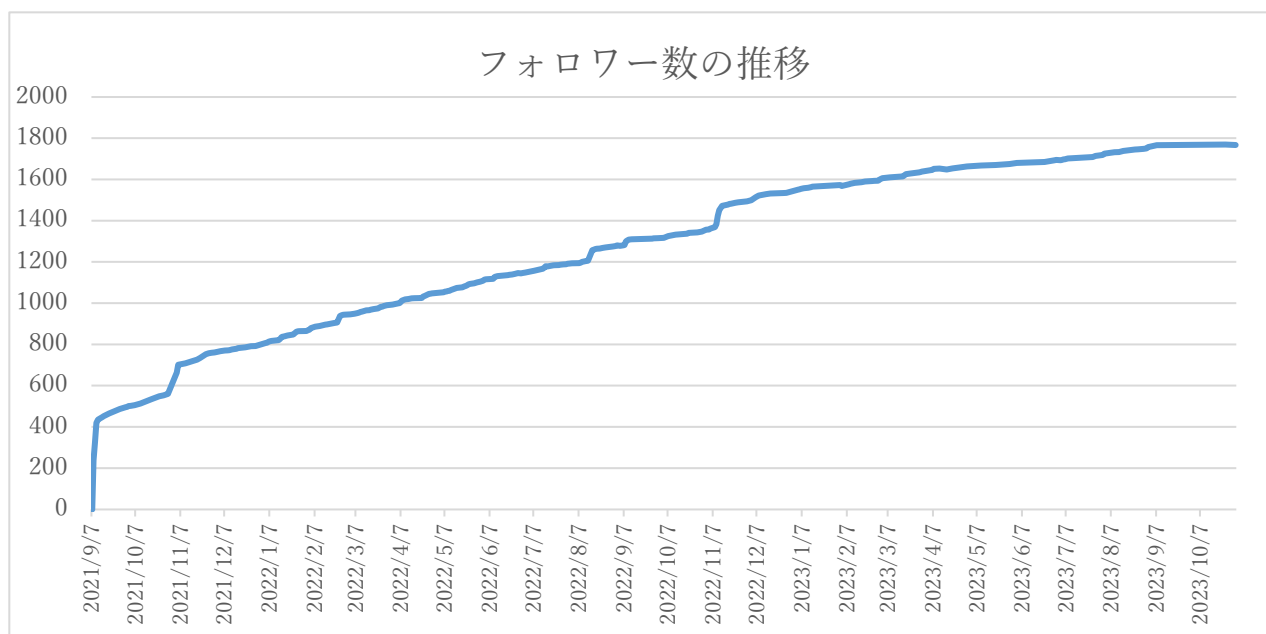


表5 「おうちで楽しむはくぶつかん」(HIRAHAKU) Youtube 視聴回数ランキング (4/1~10/31)

タイトル	公開日	R5年度 再生回数	前回 順位	R3.3からの 通算再生回数	通算 順位
1 5分でわかる平塚学入門「どっこい神輿と甚句」	2022/7/29	6,437	8	9,600	2
2 おうちでプラネタリアム (藤井大地 学芸員)	2020/4/18	3,948	1	19,500	1
3 【反省会】2023年度夏期特別展「茶色ばかりじゃないんだぞ!~カラフルな考古資料たち~」	2023/8/31	3,360	—	3,360	11
4 5分でわかる平塚学入門「中原御殿」	2021/3/26	2,555	3	7,749	3
5 2019年5月25日夜に平塚から見たスターリンク衛星	2019/5/16	1,969	9	5,007	7
6 5分でわかる平塚学入門「戦後復興と復興まつり」	2022/3/11	1,765	—	3,204	12
7 5分でわかる平塚学入門「平塚はプレートの境界だった」	2021/5/21	1,614	7	4,895	8
8 5分でわかる平塚学入門「伊勢原台地と伊勢原断層」	2022/1/14	1,545	6	5,229	6
9 5分でわかる平塚学入門「関東大震災と平塚」	2022/8/26	1,350	—	2,454	20
10 【モノづくりエイター】老眼鏡で月面クレーター観察	2021/9/8	1,284	—	2,172	22
鎌倉殿と平塚の七人 第1回_真田与一義忠	2022/1/23	267	2	7,460	4
おうちでプラネタリアム (塚田健 学芸員)	2020/4/18	1,149	4	6,556	5
鎌倉殿と平塚の七人 第2回_岡崎四郎義実	2022/2/20	216	5	4,746	9
5分でわかる平塚学入門「古墳を作った大豪族」	2021/3/26	906	10	3,651	10

表6 平塚市博物館 (HIRAHAKU_) X (旧 Twitter)

2021/9/7 新規開設。令和5年度は10月末現在 385 ポスト発信。フォロワー数 1,767 人。



平塚市 (公式) LINE

2021/7/26 から配信開始。概ね週1回投稿で、令和5年度は30回 (10/31 現在) の投稿を行った。運用開始からの総投稿数は142回。登録者数 22,486 人 (17,306 人)

展 示

夏期特別展「茶色ばかりじゃないんだぞ！～カラフルな考古資料たち～」では、色をテーマに発掘調査で発見される”モノ”が多彩な色彩に彩られていたことを紹介しました。秋期特別展「天象儀(プラネタリウム)100年の軌跡」では、現行のプラネタリウムが開発されて100年となることから、その進化の歴史や天文教育に果たした役割、そして平塚市博物館の歴代投影機も紹介しました。「第23回博物館文化祭」では、博物館で活動するワーキンググループの活動成果を展示発表します。春期特別展「ひらつかの古道を行く」は、歴史・考古・民俗の視点を合わせた人文分野合同の展示で紹介いたします。

1階寄贈品コーナーでは概ね月替わりで各分野のテーマ展を開催します。2階情報コーナーでは特別展のダイジェスト展や博物館学芸員実習生による企画展などを開催します。

特別展	春期特別展 「ゼロからの湘南地学入門」	2023 3月 18日 ~ 5月 7日
	夏期特別展 「茶色ばかりじゃないんだぞ！～カラフルな考古資料たち～」	2023 7月 21日 ~ 9月 3日
	秋期特別展 「天象儀(プラネタリウム)100年の軌跡」	2023 10月 21日 ~ 1月 8日
	第23回博物館文化祭 -ワーキンググループ展示・活動報告会・実演-	2024 2月 3日 ~ 2月 25日
	春期特別展 「ひらつかの古道を行く」展(人文合同)	2024 3月 20日 ~ 5月 19日
寄贈品 コーナー	民俗 「#竹のある暮らし」	2023 3月 2日 ~ 4月 2日
	自然系 「新着資料展 -自然分野-	4月 6日 ~ 5月 7日
	人文系 「新着資料展 -人文分野-	5月 11日 ~ 6月 4日
	歴史 「平塚空襲」展	6月 17日 ~ 7月 23日
	生物 「鳥とりどり」	7月 27日 ~ 8月 27日
	地質 「大正関東地震と平塚の地盤」	8月 31日 ~ 10月 15日
	歴史 「ひらつかの家康伝説」	10月 19日 ~ 12月 10日
	民俗 「むかしの冬の暮らし」	12月 14日 ~ 1月 21日
	考古 「その中に道はあったのか -大磯丘陵横断記-	2024 1月 25日 ~ 2月 25日
	天文 (仮)「シチズンサイエンス～流星の故郷を探して～」	3月 1日 ~ 4月 7日
情報 コーナー	生物 生きもの調査から見る生物多様性(環境保全課展示)	2023 1月 14日 ~ 5月 14日
	考古 「平塚市指定重要文化財展」(社会教育課展示)	5月 20日 ~ 6月 4日
	地質 ポスト特別展「ゼロからの湘南地学入門」	6月 17日 ~ 9月 3日
	博物館実習展示	9月 15日 ~ 9月 28日
	天文 秋期特別展関連展示「日本のプラネタリウム大集合」	9月 30日 ~ 1月 8日
	天文 ポスト特別展「天象儀100年の軌跡～プラネタリウムの仕組み編～」	2024 1月 18日 ~ 4月 7日

プラネタリウム

プラネタリウムの一般投影は、毎週土・日曜日と、春・夏・冬休み期間中の水・木曜日に行います。8月は金曜日も、幼児向け番組を投影します。コロナ禍以前に戻し1日2回、70名の定員で実施します。特別投影等も実施する予定です。また、幼児団体投影・学習投影は市外の園・学校にも対象を拡大し、予約制で水・木・金曜日午前に実施します。

一般投影	一般向け投影 母なる星・太陽	2023 3月 4日 ~ 5月 7日
	一般向け投影 見たか?家康 ～家康の生涯を彩る天変	5月 13日 ~ 7月 16日
	一般向け投影 流星群を見よう	7月 22日 ~ 8月 27日
	一般向け投影 国際宇宙ステーションに潜入!	9月 2日 ~ 10月 29日
	一般向け投影 プラネタリウム大解剖	11月 4日 ~ 1月 7日
	一般向け投影 2024年の天文現象	2024 1月 13日 ~ 2月 25日
	一般向け投影 見えないブラックホールを見る	3月 2日 ~ 5月 5日
	幼児向け投影 サンとムーン	2023 4月 8日 ~ 8月 26日
	幼児向け投影 2061 約束の星	9月 2日 ~ 12月 30日
	幼児向け投影 クルムカとマジックロケット	2024 1月 6日 ~ 3月 30日
特別投影	星空散歩 (偶数月、月初の土または日、6回)	2023 4月 2日 ~ 2月 4日
	「ひらはくオールスターズ」(奇数月、月初の土または日、6回)	5月 6日 ~ 3月 上旬
コンサート	シアトリカル・プラネタリウム (雑貨団、1回)	12月 22日
	プラネタリウム・コンサート	未定

各種普及行事

申込制 行事	考古	体験学習「昔の方法で火を起こそう」	2023 7月 30日
		体験学習「カラフルな勾玉をつくろう」	8月 13日
		考古学入門講座（3回）	10月、11月、12月の第4土曜日
	歴史	郷土史入門講座（3回）	2024 1月 28日 ~ 3月 24日
	民俗	石仏めぐり	2023 10月 29日
		体験学習「お飾りをつくろう」	12月 24日
		「館長の民俗学入門」講座	6月 3日 ~ 2月 25日
	地質	自然観察入門講座「相模川流域ジオツアー入門」	6月 3日・11月 26日
		体験学習「化石レプリカをつくろう」（年間3回程度）	7月 27日・8月 3日
		地球科学入門講座(2回連続)	2024 1月 28日・3月 24日
	生物	自然教室（7回）	2023 4月 15日 ~ 3月 9日
	天文	星を見る会（10回）	4月 28日 ~ 1月 18日
		天文学入門講座「電磁波と天文学」(6回)	4月 22日 ~ 9月 30日
		最新天文学講座（2回）	5月 14日・2月 17日
		ピンホールカメラを作ろう	日程 調整中
		不思議な板で万華鏡を作ろう（当日整理券）	7月 25日
		プラネタリウムを操作してみよう	7月 28日・8月 1日
		体験学習「色の不思議を探れ！」	8月 4日
		体験学習「体験！宇宙飛行士選抜試験」	8月 15日
		何にもしないで夕陽を見よう	11月 4日
ボックスプラネタリウムを作ろう		2024 1月 5日	
総合	こどもフェスタ	4月 29日・30日	
	平塚学講座	9月 24日 ~ 11月 12日	

自由参加	民俗	ろばたばなし	月1回 日曜日
		学芸員が語る「相模の家のくらし」	ろばたばなしと同日
		鳥のおめんを作ろう	8月 5日

会員制 行事	考古	平塚の古代を学ぶ会	毎月1回水曜日
		古代生活実験室	毎月1回木曜日
		東国史跡踏査団	毎月1回土曜日
	歴史	古文書講読会	毎週金曜日
		裏打ちの会	毎月1回水曜日
		平塚の空襲と戦災を記録する会	毎月1回土曜日
		地域史研究ゼミ	毎月1回土曜日
	民俗	石仏を調べる会	毎月第二第四木曜日
		民俗探訪会	毎月第三水曜日
		祭りばやし研究会	毎月1回土曜日
		聞き書きの会	毎月第二火曜日
	地質	地球科学野外ゼミ（野外6回、室内5回）	毎月1回 土or日曜日
	生物	生き物ズームプロジェクト	毎月1回日曜日
	天文	天体観察会	毎月1~2回土・日曜日
	総合	展示解説ボランティアの会	毎月1・3木曜日

その他の全館的事業

館内のくん蒸・消毒に伴う休館	2023 6月 6日 ~ 6月 16日
博物館実習	2023 9月 6日 ~ 9月 14日

*新型コロナウイルスの感染状況等により展示や行事の内容・日時が断りなく変更される場合がありますので、最新の「博物館ホームページ」「広報ひらつか」等でご確認ください。

平塚市博物館の現状と課題等

1. 現状

(1) 施設と設備

- ・平成20年度（2008年度）に、第二次耐震診断で耐震補強が必要とされ、建物の強度に不安があります。
- ・空調や給排水設備が老朽化し、修繕対応していますが、故障の頻度が高まっています。
- ・建物構造上の問題で、乗用エレベーターや多機能トイレ等の設備が設置されていないため、バリアフリーに対応していません。

(2) 博物館資料の保管環境

- ・収蔵庫の資料収蔵率が100%を超え、資料の収集や保存、活用に支障をきたしています。
- ・館内に収蔵できない資料は、老朽化した城島分庁舎の倉庫に保管しています。
- ・市史編さん資料は、中央図書館西棟と城島分庁舎に保管しています。

(3) 展示と教育普及活動

- ・常設展示は、平成16年度（2004年度）以降更新されていないため、展示内容が固定化しています。
- ・最新の調査研究の成果を年3回の特別展等で公開し、市民の共有財産としています。
- ・プラネタリウムは、一般投影や学習投影等を実施し、好評をいただいています。
- ・ワーキンググループの活動を通して、資料や情報の収集蓄積が図られています。
- ・体験学習、入門講座、星を見る会等、多様な学習機会を提供しています。
- ・ホームページやSNSを通して、地域の自然と文化に関する情報を発信しています。

2. 課題

(1) 施設と設備

- ・安心安全かつすべての人が快適に利用できる施設に整備する必要があります。
- ・大規模改修等の方向性を検討するために、建物劣化度調査の実施が必要です。

(2) 博物館資料の保管環境

- ・中央図書館の改修に伴い、西棟に保管中の市史編さん資料を移設する必要があります。
- ・城島分庁舎は用途転換や解体が検討されており、資料を移設する保管場所が必要です。
- ・収蔵資料を適切に保管し、未来の市民へ引き継ぐために、収蔵空間の拡張が必要です。

(3) 展示と教育普及活動

- ・常設展示を更新し、市民と時代のニーズに即した展示内容に一新する必要があります。
- ・子育て世代の来館を促すとともに、学校教育との連携強化が必要です。
- ・『平塚市史』編さんのために収集した歴史資料の継続的活用を図る必要があります。

3. 取組方針

(1) 誰もが安心安全かつ、快適にサービスを楽しむ施設環境の整備

- ① 「平塚市公共施設等総合管理計画」の考え方に基づき、76年の目標耐用年数まで利用できるように、安心安全の確保として耐震補強工事等を実施します。
- ② 空調・給排水・電気等の設備機器の適切な更新を図ることで、安心安全かつ快適な利用環境を確保するとともに、省エネルギーの効果を高めます。
- ③ 「バリアフリー法」及び「神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例」に則り、乗用エレベーターの設置、多機能トイレの設置、便器の洋式化等を実施します。
- ④ 目標耐用年数まで利用できるように、上階の荷重を緩和する対策に取り組みます。

(2) 施設の機能を見直し、収蔵資料保管環境の改善と市民サービス向上に取り組む

- ① 館内の収蔵エリアを拡張し、博物館が蓄積した資料と情報を未来の市民へ引き継ぐ環境を整えるとともに、収蔵室の定期公開などの活用に取り組みます。
- ② 城島分庁舎及び市史編さん室保管資料を移設する新たな保管庫の確保に向け、関係部署と連携して検討を進めます。
- ③ 参考図書を配架した市民学習室などを新設し、市民の学習環境の充実や交流スペースの拡充を図ります。
- ④ 収蔵資料や画像・動画等をデジタル化し、ホームページ上で公開するなど、デジタル資料の多様な活用を進めます。

(3) 平塚市への誇りと愛着を育む展示や教育普及活動の実施

- ① 平塚市への誇りと愛着を醸成し、身近な自然科学への興味関心を育むため、時代と市民のニーズに即した魅力的な常設展示に全面更新します。
- ② 年3回の特別展示や企画展を開催し、最新の調査研究の成果を市民の知的共有財産にするとともに、展示を通して収蔵資料の活用を図ります。
- ③ プラネタリウムのオリジナル番組や生解説の充実のため、投影機器等の適切な更新を図ります。
- ④ 子育て世代や小中学生のニーズを踏まえた展示や行事を企画するとともに、学校教育との連携を深め、子どもたちが楽しく学べる学習環境づくりに取り組みます。
- ⑤ 庁内関係部署や地域団体、学校、事業所、他の博物館等との連携を深め、地域の活力向上につながる取り組みを進めます。
- ⑥ 『平塚市史』編さんのために収集した歴史資料を保管し、刊行物や展示を通じた活用を図ります。

考え方の背景

平塚市博物館は、相模川流域の自然と文化を活動のテーマとして、昭和 51 年(1976 年)に開館しました。考古・歴史・民俗・生物・地質・天文の6分野で構成する総合博物館で、プラネタリウムを併設しています。地域に存在する身近な自然と文化を市民とともに調べ、集め、学び、分かち合い、地域の新たな価値や魅力の発見に努めてまいりました。その成果を展示や行事、ホームページ等を通して広く発信しています。50年近くにわたる博物館活動で蓄積された資料と情報は、地域の自然と文化に関する膨大な記憶装置として永続的に活用されるべき資産といえます。

博物館は築48年が経過し、施設・設備の老朽化がかなり進んでいます。平成20年度(2008年度)に実施した第二次耐震診断の結果、施設の耐震補強が必要と判定されています。空調・給排水・電気等の設備も故障の頻度が年々高まっており、更新が必要です。また、建物構造上の問題で、乗用エレベーターや多機能トイレ等の設備が設置されていないため、屋上階までの垂直移動に支障があり、バリアフリー化を進め、誰もが安心安全かつ快適に利用できる環境に整備する必要があります。

博物館には、資料の収集・保管・調査・研究及び展示・教育普及の機能があり、各機能がそれぞれつながり合って構成されています。なかでも資料の収集と保管は、博物館の心臓部ともいべき最重要機能であり、質量ともに充実した資料の収集と適切な保管環境がなければ、一切の博物館活動は停滞します。実物資料のもつ質感が重要な意味を持つのであり、実物資料を豊富に所蔵し、本物を体感できることが博物館の最大の存在価値であるといえます。

館内収蔵庫の総面積は 469 m²で、半世紀に及ぶ博物館活動を通して収集した地域資料は約 20 万点にのぼり、すべてを収蔵するには倍以上の収蔵面積が必要です。館内に収蔵しきれない資料は城島分庁舎の 486 m²に保管していますが、昭和 49 年(1974年)建設の分庁舎は老朽化が著しく、個別施設計画において近い将来に用途転換や解体が検討されています。さらに、中央図書館の大規模改修に伴い、図書館西棟の 184 m²に保管している市史編さん資料の搬出が計画されています。城島分庁舎と図書館西棟の資料を移設するには 670 m²の保管スペースが必要になり、関係課と連携して新たな保管庫の確保に努めるとともに、館内の保管スペース拡充についても検討する必要があります。

博物館の常設展示は、開館以来5年ごとの展示替えが平塚市総合計画に位置付けられ、平成16年度(2004年度)までに5回の展示替えを実施しました。新着資料や最新の調査研究の成果を公開し、魅力ある新鮮な博物館の姿を打ち出し、展示替え後は入館者数が顕著に増加するなどの効果が表れていました。しかし、第二次耐震診断において、耐震補強の際には柱や壁を増設し、展示ケース等を撤去する必要性が指摘されたことから、平成19年度(2007年度)策定の総合計画「生活快適・夢プラン」には盛り込まれず、耐震補強工事のタイミングに合わせて展示替えを行う方針に変更されました。したがって約20年間展示内容が更新されておらず、市民アンケートからも、「展示が変わり映えないので再来館する気持ちが起らない」といった意見が複数寄せられています。展示内容では、「平塚ならではの展示」「平塚に住んでいて良かったと思える展示」など、平塚の特性や魅力を学べる展示を望む意見が多く、こうした市民や時代のニーズを踏まえ、常設展示の内容を全面的に見直す必要があります。

これら諸課題を解消することで、博物館の魅力がさらに高まり、平塚への郷土愛が醸成されるとともに、市民と一緒に集め、調べ、学び、分かち合う、知の交流拠点としての役割をいっそう充実させることができると考えます。